

# 乳幼児期にかかりやすい感染症

○ 医師が意見書を記入する感染症・・・主治医の診断を受けてから登園してください。

感染症名	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす	主な症状	予防接種等
麻疹 (はしか)	8～12日 (7～18日)	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから	38度以上の高熱、咳、鼻汁、結膜充血→頬粘膜疹:コプリック斑→全身の発疹	麻疹風しん混合ワクチン(定期予防接種:1歳、 <b>小学校就学前1年間に接種</b> )
インフルエンザ	1～4日 平均2日	症状が有る期間(発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後乳幼児にあつては3日を経過するまで	発熱、全身倦怠、関節痛、筋肉痛、頭痛 咽頭痛、鼻汁、咳	インフルエンザワクチン(任意予防接種:毎年10月頃から接種可能)
新型コロナウイルス感染症	1～14日 平均5日	発症後5日間	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚・嗅覚異常	新型コロナウイルスワクチン(任意予防接種)
風しん	16～18日 (通常14～23日)	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから	発熱、発疹、リンパ節腫脹	麻疹風しん混合ワクチン(定期予防接種:1歳、 <b>小学校就学前1年間に接種</b> )
水痘 (水ぼうそう)	14～16日 (10～21日)	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから	微熱・被覆部に発疹、斑点丘疹状→水疱→顆粒状痂皮	水痘ワクチン(定期予防接種)
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16～18日 (12～25日)	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで	発熱・耳下腺、舌下腺、顎下腺の腫脹及び圧痛	おたふくかぜワクチン(任意予防接種)
結核	2年以内	喀痰の塗抹が陽性の間	医師により感染の恐れがないと認めるまで	発熱・咳・呼吸困難	BCGワクチン(定期予防接種)
咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから	発熱・全身症状 咽頭炎と結膜炎の合併症	予防接種はありません
流行性角結膜炎 (はやりめ)	2～14日	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから	微熱・頭痛・全身倦怠・結膜の炎症・眼瞼浮腫・目やに	予防接種はありません
百日咳	7～10日 (5～12日)	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで	発作性咳の長期反復、持続	DPT-IPV4種混合ワクチン又はDPT-IPV-Hib5種混合ワクチン(定期予防接種)
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O 26、O 111等)	3～4日 (1～8日)	便中に菌が排泄されている間	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの	激しい腹痛、頻回の水様便、血便 発熱は軽度	食品の十分な加熱、手洗いの徹底
急性出血性結膜炎	1～3日	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで	流涙・結膜充血・眼瞼浮腫	眼脂、分泌物にふれない
溶連菌感染症	2～5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	発熱がなく、抗菌薬内服後24～48時間経過していること	発熱・咽頭痛・扁桃腺炎・莓舌 頸部リンパ節炎・全身に発疹	予防接種はありません
髄膜炎菌性髄膜炎	2～4日 (10日)		医師により感染の恐れがないと認めるまで	高熱、皮膚・粘膜の出血斑関節炎等	海外流行地では、予防接種

○ 医師の診断を受け、保護者が登園届を記入する感染症・・・主治医の診断を受けてから登園してください。

病名	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす	主な症状	予防接種等
マイコプラズマ肺炎	2～3週間 (1～4週間)	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること	咳・発熱 呼吸困難(重症の場合)	予防接種はありません
手足口病	3～6日	手足や口腔内に水疱・潰瘍かひょうが発症した数日間	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	感冒様症状 手足口に水疱性発疹	予防接種はありません
伝染性紅斑 (リンゴ病)	4～14日 (～21日)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと	顔面紅斑・四肢紅斑・微熱	予防接種はありません
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	ロタ1～3日 ノロ12～48時間	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	発熱・下痢・嘔吐	ロタウイルスワクチン(定期予防接種)
ヘルパンギーナ	3～6日	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	高熱・咽頭痛・咽頭に水疱	予防接種はありません
RSウイルス感染症	4～6日 (2～8日)	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと		予防接種はありません
帯状疱疹	不定	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから	神経支配領域に小水疱 神経痛・刺激通・掻痒感	水痘ワクチン(定期予防接種)
突発性発しん	約10日	発熱中は感染力がある	解熱後1日以上経過し機嫌が良く全身状態が良いこと	38度以上の高熱が3～4日後の解熱とともに発疹	
伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～10日	効果的治療開始24時間まで	皮膚が乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度のものであること	水疱・痂皮・かゆみ びらん(じめじめした赤い肌)	皮膚の清潔保持

参考資料『保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)厚生労働省』

感染症の予防として、患者と必要以上の接触は避け、手洗い・うがいを励行しましょう。流行期には人ごみを避ける等、普段から予防を心がけましょう。

保育園は集団生活の場ですので、他児への影響を考えお子様の体調を整えてから登園させてください。(登園時期は医師に確認し、園にご連絡ください。)